

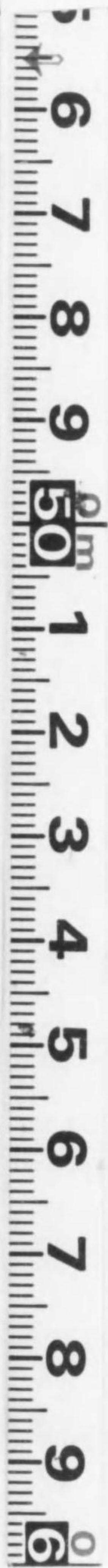


昭和
十年

大氣運行過程

特261

960



始



特261
960



氣學講堂

氣學講堂略縁起書

三才堂修方月八日
カシロク
増本

氣學講堂は今より千三百餘年前、推古天皇の十年十月百濟の僧、勸勒の奉獻せる曆、天文、地理、遁甲、方術の五書に據り聖德太子の創めて我國に於て自然科学を講ぜられたる御學問所を古都長岡皇城址に復興せしものとす。

抑々、宗教とは機關論に非ず、神官僧侶に非ず、經文戒律に非ざるあり。則ち之を要約すれば、宇宙、大氣原子の爲す先天及後天作用を人の生存に善導實用せしむる方則にして、生きんとする者の生きんとする能に故障おらしめざるを垂示するを以て其本義とす。

講堂は聖德太子御在世の文化を今に移し宇宙、大氣原子に關する萬古不易の方則を講授して人をして其幸福安寧を保持増進せしむる講學所とす。

九六修齊堂由來記

往古、支那に於て大氣原子の作用を農事に至る迄も實施し以て天神地祇の眞果を如實に示驗體顯せしめし天子あり、此の聖天子を夏王大禹と謂ひ此の農法を井田法と謂ふ。
我國に於ては弘法大師之が實施を企圖せられ弘仁八年紀州高野山上に法域を結界し中央に根本大塔を建立して之を金剛峰となし其東方に楊柳山、巽方に摩尼山、南方に姑射山、坤方に虎ヶ峰、西方に應神山、乾方に辨天嶽、北方に宇宙ヶ峰、艮方に勝蓮華院山の九峰を撰し之等の山から山峰から峰への移居動身を以て初めて之を人に活用實施するの緒に就きしが不幸天業中道にして蕤ぜられぬ。
九六修齊堂は往古大禹の施設に倣ひ弘法大師の意を體し天神地祇の善用を一堂の内に収めたるものにして即ち東方に登進舎、巽方に齊風舎、南方に九六舎、坤方に地役舎、西方に靜澤舎、乾方に乾天舎、北方に一始舎、艮方に止動舎、中央に太極溜間の九室を設け之等の室から室への移居動身を以て創めて天地の作用を人に活應實施する堂宇とす。



氣學天壇 (山宕變)

氣學天壇創設誌

氣學天壇は觀天堂、天空戒壇、律舍等を以て成り萬物構成の基元たる宇宙、大氣原子に就いて究理實驗する占照所たり。
抑々宇宙大氣原子の實象は之を極樂莊嚴とも謂ひ人皆生前親しく映感せんと渴望するも九六の祐氣を修齊せざれば之を得ず。
されば古來之を映感して眞に人生の歡喜を味得せるは獨り善導大師（支那の高僧、淨土宗始祖）あるを聽くのみ。
氣學天壇は小子の創意を以て建立する舍宇にして古今を通じて洋の東西を問はず先聖も未だ之に染手せず。之が實果を世に示すを得るは小子望外の歡喜とす。

○八咫鏡と神の體用

八咫ヤタとは全能の用ハカラキを謂ふ。抑々神は其體カミチは無、其用ハカラキは全能にして之を宇宙に存する大氣原子と爲す。

大氣原子は極微なる八角立方の粒形を爲し無の體カミチを以て萬物に保含せられ其の太極を定むるや天地トウチと同行ドウギョウして一切の生成化育を司る。則ち神の體カミチは八角の粒形にして九氣七色より成り神の用ハカラキは九種と定まり天地と共に無窮たり。

畏くも八咫鏡は此の萬物に對し生成化育を司る宇宙大氣原子を示象せられしものにして皇宗ソウの以て治國の基となし賜ひ列聖の以て尊嚴の極となし賜ふ所なり。
我邦の古來神國たる所以は實に此の八咫鏡の鎮護に發すと謂ふべし。

○氣學の創始

宇宙生類の生存は大氣の保有呼吸に基く。人も誕生の際母體と別個に大氣を稟保するものにして之を人の本命の氣と稱し本命の氣の一極は生涯、人の生存と天地大氣の生動との連繫を爲すものとす。

抑々現代世界の學界を擧げて是認せられつゝある大氣即ち空氣の組成は今より百六十餘年前近世化學の祖と仰がる、佛蘭西人ラヴアジエー氏の實驗を以て解説せられ因襲の久しき遂に不信の裡に之を確定して怪ます既に一般學徒の通念と爲り居るも元來ラヴアジエーの實驗は窒素の固形物たる水銀を硝子管中に於て長時間熱し其氣體分離を求めたるものに過ぎざれば管中に於ける空氣の成分に窒素の多かる可きは自明の理なり。

ラヴアジエーの實驗によれば空氣の化學的成分は左の如しと爲す
空氣百分中 窒素 七八、〇三 酸素 二〇、九九 其他 〇、九八

されば大氣即ち空氣の成分は今やラヴアジエーの實驗を非とし新たに窮理せられざる可からず、則ち大氣は人の感能に感ぜざる人の肉眼に映ぜざる大氣原子と稱する八角立方體極微粒子の密集より成れるものにして大氣原子そのものも亦其體(形体)八個の異類な

る氣體粒子の集合より成り其用(作用)九個の異なる營爲の集合より成る。要約せば大氣の化學的成分は窒素(六白金氣)酸素(三碧木氣)アルゴン(五黄土氣)ネオン(八白土氣)ヘリウム(九紫火氣)クリプトン(九紫火氣)クセノン(二黒土氣)の他尙三種の氣體を追加するを要し各成分の容量割合も亦均等たるものとす。

大氣原子の體及用カクチの詳細に就いては講堂の口傳に譲ると雖も宇宙に存する現實に於ける一切象形の體及用は單に大氣原子の體及用を大衍せるものに過ぎず。

而して大氣原子の用ハコラキに祐尅の二作用あり。萬物祐氣を稟くる時は生加して有を見るに至れども若し尅氣を稟くる時は減滅して遂に無に歸すに至るべし。

人の本命の氣に同會する祐氣の運は之を幸運と稱し尅氣の運は之を凶運と稱す。人生の災禍、貧窮、病患の凶運に苦惱するも或は亦之が福慶、富貴健康の幸運に歡喜するも唯呼吸大氣の祐尅如何に據つて發す。されば自己の呼吸する大氣の祐尅を知らざる者は自己の運命の去就を知らず自己の生存の長短を知らざるなり。人の運命と呼吸大氣の祐尅如何豈懼る可く撰ぶ可きに非ずや。此の宇宙大氣原子に關する新學術を氣學と謂ふ。

(一) 感寸學氣

現象の生因

凡そ人の處世の苦は貧と病との二より發す。貧を防ぎ病を避け人各々其享保せる天徳の全能を發揮して生を樂しむを得ば現世即ち實相の淨土たり。

政治の要諦も宗教の存立も科學の目的も究極一に此の人生淨土の實現に歸す。而して之が實現の對策として法律の制定、行政の實施、教化の設備、社會事業の施設等あり、指導の懇切、匡救の盡力、保護の普及全きを期すと雖も、尙ほ巷に失業を憂ひ室に病患を呪ふ聲あるを聞く。

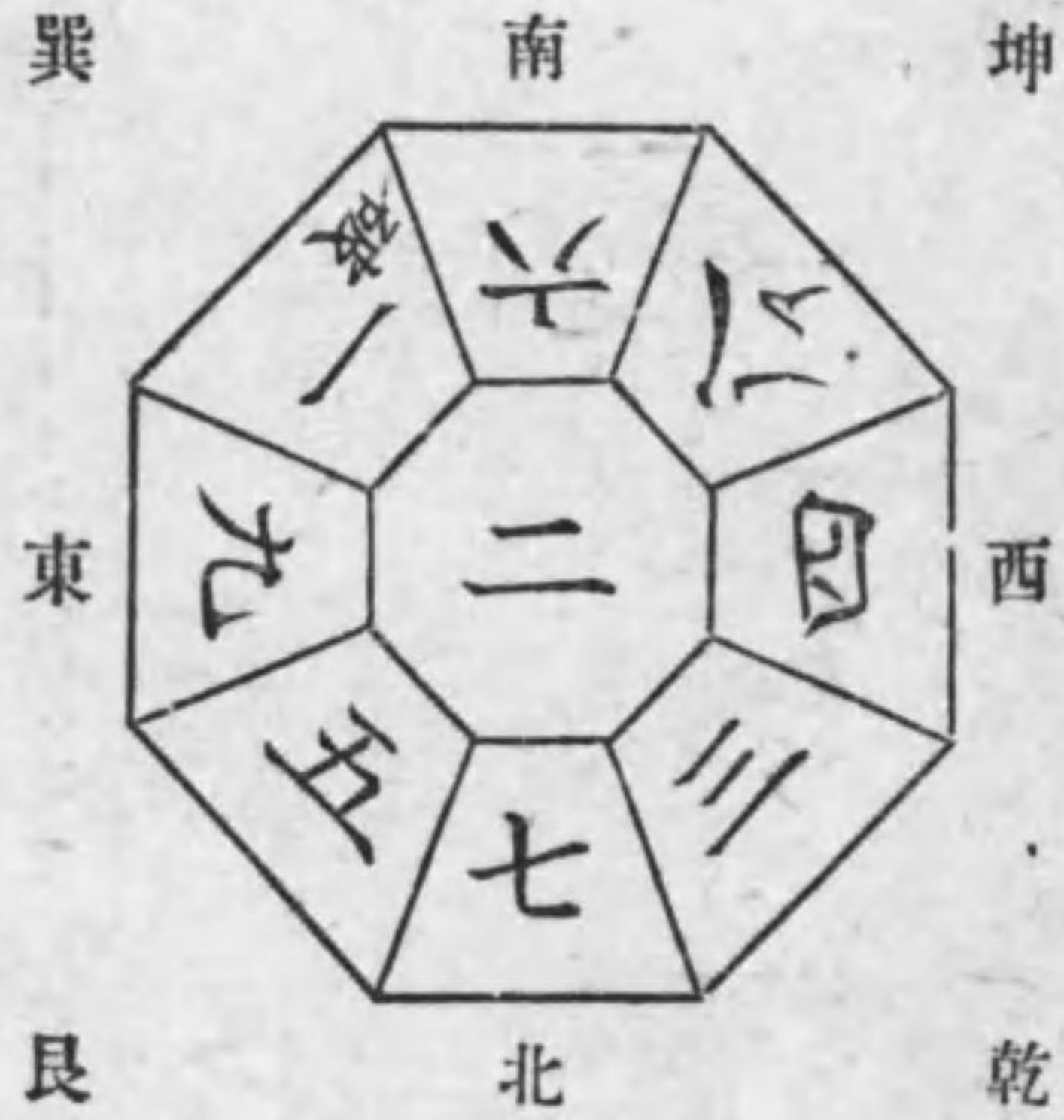
文化開けて人、反つて生きるに苦しむとは何ぞや。之れ世の人、貧の現象、病の現象そのものを知つて未だ現象の生因を知らず即ち自己に映感せる現象の末實のみを知つて未だ自己に映感せざる現象の本源を知らざるなり。既に現象の成因を知らず焉イツケンぞ之が末實に對する良策を得んや。今やヘーゲル氏の現象に關する新論理科學を基礎として立論せるマルクス氏の經濟論を聽くと雖も其論説は宇宙先天の方則に乖離せるを知らざるものなるが故に其學説の實際化實用化は全く至難にして單に人を毒するのみ。

氣學は現象の成因本元たる宇宙大氣原子に關する新自然科學にして彼の老子の唱導せる所謂「玄」の本體たり即ち人に現象の成因本元たる宇宙大氣の善用を教へ以て人の處世に於ける貧病を始め一切の災厄を芟除し人に其天徳の豊有を圖らしめて之が末實たる福慶の現象を稟與招來せしむるものとす。

人よ徒に他人の富貴を批羨するを罷めて退いて先づ自己の天徳の改善累積に精進せよ。

(九氣現象學)

○ 自昭和十年二月五日子ノ刻 至全 十七年二月四日亥ノ刻 壹ヶ年間宇宙運行の大氣原子内に於ける九個の氣體粒子の機能及其所在方位は左の如し



- | | | |
|---------|------|------|
| 中央…………… | 二黑土氣 | |
| 乾方…………… | 三碧木氣 | 大歲氣 |
| 西方…………… | 四綠木氣 | |
| 艮方…………… | 五黄土氣 | 殺氣 |
| 南方…………… | 六白金氣 | |
| 北方…………… | 七赤金氣 | |
| 坤方…………… | 八白土氣 | 暗劍殺氣 |
| 東方…………… | 九紫火氣 | |
| 巽方…………… | 一白水氣 | 歲破氣 |

○各性別祐尅氣所在方位表

抑々人の天運は禍福の現象と爲りて人に映感せしむるに、一線の氣より四線の幾七線の象、十線の形に至る期間を要す。則ち月にして四ヶ月、七ヶ月、十ヶ月、年にして四年七年十年の歲月を経るを要す。人の現在に於ける苦樂、禍福は凡て過去に於ける其身體の無意識に呼吸、吸入蓄保せる宇宙大氣の祐尅作用に發端生因するものとす。されば凶を避け吉を疆めんと欲せば平常より祐氣を用ひて之を蓄保し、將來吉運の招來に專念すべし。今年に於ける各人、本命性に對する大氣祐尅の所在方位を揭示すれば左表の如し。

一、各自の生年を以て其本命性を知り現在の住居を太極(中心)として方位を別つ可し。

但十八歳以下の者は其生月を以て本命性を定む。

一、尅氣本命を用ふる時は其効應の定時に於て死亡するに至る可く尅氣を用ふる時は失敗するに至る可し。

一、祐氣實用の方法に七種あり内最も實施の簡易なるは自家内に於ける寢所の移動とす。

一、人の喜怒哀樂の感情を起し或は成功及失敗の禍福を演ずるは皆自己の周圍に於ける他人の自己に爲さしむる處たり(親子、夫婦、兄弟と雖も自己の身體と大氣を別個に保有せる者は天地より見て皆之を他人と謂ふ)

されば人の處世の善惡如何は自己と其周圍に於ける他人との連繫作用の得失如何に據つて定まる。祐氣を用ひたる人には其周圍の他人皆自己に慶幸の作用を與へ尅氣を用ひたる人には皆之に反す。

本命性別	大氣				尅氣所在方位				
	生氣 <small>大</small> 吉	和氣 <small>吉</small>	退氣 <small>小</small> 吉	劔殺氣 <small>極</small> 凶	五黃殺氣 <small>極</small> 凶	本命氣 <small>極</small> 凶	的殺氣 <small>大</small> 凶	死氣 <small>大</small> 凶	殺氣 <small>大</small> 凶
一 白水性	南、北	—	西	坤	艮	巽	乾	坤、艮	東
二 黑土性	東	—	南、北	坤	艮	中央	—	乾、西	巽
三 碧木性	—	西	東	坤	艮	乾	巽	南、北	坤、艮
四 綠木性	—	乾	—	坤	艮	西	東	南、北	坤、艮
五 黃土性	東	—	南、北	坤	艮	艮	坤	乾、西	巽
六 白金性	—	—	—	坤	艮	南	北	東	乾、西
七 赤金性	—	—	—	坤	艮	北	南	東	乾、西
八 白土性	東	—	南、北	坤	艮	坤	艮	乾、西	巽
九 紫火性	乾	—	—	坤	艮	東	西	巽	南、北

○各性の祐氣所在方位月別表

一、年盤の祐尅は除けり

一、祐氣の多き月は天運的に行動自由なる時期とす。

九紫火性	八白土性	七赤金性	六白金性	五黄土性	四緑木性	三碧木性	二黒土性	一白水性	性別		月別
									在	勿	
乾	東北南	巽	巽	北南東	巽乾	西東	北南東	北南西乾	位方	氣九	正月節
三	九七六	一	一	七六九	一三	四九	七六九	七六四三	氣九		二月節
艮東	乾坤巽	乾東	乾東坤	坤巽東	巽	艮巽	坤東	艮坤	位方	氣九	三月節
四八	二七九	二八	二八七	七九八	九	四九	七八	四七	氣九		四月節
巽西艮	坤西東	坤巽	巽西東	坤西巽東	艮	一	坤巽	東艮坤	位方	氣九	五月節
八二三	六二七	六八	八二七	六二八七	三	一	六八	七三六	氣九		六月節
北南	巽東	西東	巽	巽東	西	西	巽東	北南巽	位方	氣九	七月節
四三	七六	一六	七	七六	一	一	七六	四三七	氣九		八月節
坤南乾	南	艮巽南	艮南	乾巽南	一	艮坤	巽乾	巽	位方	氣九	九月節
四二八	二	一六二	一二	八六二	一	一四	六八	六	氣九		十月節
北東四	北	南北西	北南西	西北	坤南	南東	西	坤東	位方	氣九	十一月節
二四八	二	一二八	二一八	八二	三一	一四	八	三四	氣九		十二月節
坤巽東	乾西南	坤乾北	北西坤	乾西坤南	東南北	南北巽	乾西南	巽乾西東	位方	氣九	正月節
二四三	六七九	二六一	一七二	六七二九	三九一	九一四	六七九	四六七三	氣九		二月節
一	艮北西	南西	坤艮南	艮西北南	坤北	坤北	艮北南	西	位方	氣九	三月節
一	七九六	八	一七八	七六九八	一九	一九	七九八	六	氣九		四月節
北乾	艮坤	艮	北南	艮坤北南	坤	坤乾	艮坤北南	艮南乾	位方	氣九	五月節
八四	六九	六	八七	六九八七	九	九四	六九八七	六七四	氣九		六月節
乾	東北南	一	一	北南東	乾	西東	北南東	北南乾西	位方	氣九	七月節
三	九七六	一	一	七六九	三	四九	七六九	七六三四	氣九		八月節
艮東西	乾坤巽	乾東	坤乾東	坤乾巽東	西巽	艮巽	坤東	艮坤西	位方	氣九	九月節
四八三	二七九	二八	七二八	七二九八	三九	四九	七八	四七三	氣九		十月節
艮巽西	西東	乾巽	東西乾巽	巽西東	艮乾	乾	巽	艮東	位方	氣九	十一月節
三八二	二七	一八	七二一八	八二七	三一	一	八	三七	氣九		十二月節

(二) 感寸學氣

大氣は人を教育する

假令親や他人が何を教へずとも幼兒は其發育につれて先天的に智能が發達するものである。即ち人は改めて何等の人為的教育を受けずとも滿十八歳に達すれば自然的に自己の生存保持に必要な智能だけは必ず一通り(八種の智能)具備するものである。

然らば何が此の智能の獲得を爲さしむるのであるか。周囲の環境か否、日常の經驗か否、呼吸する宇宙の大氣が人體保氣の一極に同會して教へるのである。之を動物に就いて見ても彼の燕が所を違へず飛去り飛來り龜が自分の産卵した場所に一定の孵化日数を待つてチャント子供を迎ひに来るが如きは全く他動的に教へられた結果ではない。彼等は磁石なくして方角を知り時計厝なくして時日の經過を精確に知つて居るのである。斯くの如き人や動物の體が保有して居る大氣一極の微妙なる用^{ハダラキ}を本能と謂つて居る。

眞の教育は人の本能に立脚した教育でなくてはならない。約言すれば本能教育でなくてはならない。本能を矯める所に現代教育の矛盾や缺陷が存するのである。本能教育に於ては宇宙の大氣そのものが教育の作用を爲すのであつて人の教育者は單に之が補助を爲すに過ぎない。換言すれば本能教育とは取りも直さず宇宙の大氣教育なのである。

しかし宇宙の大氣には人にとり祐氣と尅氣とがあつて祐氣を呼吸保有する人は自己の生存に對し善き本能が與へられ尅氣を呼吸保有する人は惡き本能が與へられる。善き本能を與へられたる者は唯歲月の經過さへ待てば其の儘にして天才賢人と成り得るのである。

如何に人為の學校教育を盡くしても天爲の大氣教育を無視しては斷じて處世上幸福なる生涯を果すことが出来ない。學校は卒へたが職がない。學校は出たが出世しない。學校は良く出來たが縁談が悪い等と云ふ現象は皆此の大氣教育を善く受けない結果である。

學校教育は人の社會的教育であつて大氣教育は人の生存的教育である。學校教育は他動的、人為的であるが大氣教育は主動的天爲的である。

今や學校教育以外に人の生存上より重要緊密なる大氣教育の全く閑却放置せられて居た事が始めて發見せられたのである。

(大氣教育學)

教育とは兒童を山の麓に連れて行つて春風に吹かれさすことだ。

孔子

○各性の大氣同會月別 (氣學年度)

一、人の意志は人体の保有する大氣の一種即ち人の本命性に宇宙大氣の同會せる結果發生するものにして大氣同會作用、年月日時の變化に従ひ人の心境は常に他動的に變化すべし。
 一、神氣の同會は心境良化し、尅氣の同會は心境惡化す、詳細は心理氣學に就いて知るべし。
 一、本命年盤の同會は自然の成行を示し本命月盤の同會は自己の意志を示す。同會の作用に依る尅尅吉凶の如何は氣學入門を參照すべし。
 一、記号略字「ア」は暗劒殺氣、年盤「破」は月破氣、月盤「破」は歲破氣とす。

性別	月別		正月節		二月節		三月節		四月節		五月節		六月節		七月節		八月節		九月節		十月節		十一月節		十二月節		
	命	本	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	位	方	
一白水性	年盤	巽	一	巽	九	巽	九	巽	八	巽	七	巽	六	巽	五	巽	四	巽	三	巽	二	巽	一	巽	九	巽	八
	月盤	巽	一	巽	九	巽	九	巽	八	巽	七	巽	六	巽	五	巽	四	巽	三	巽	二	巽	一	巽	九	巽	八
二黑土性	年盤	中	二	中	一	中	九	中	八	中	七	中	六	中	五	中	四	中	三	中	二	中	一	中	九	中	八
	月盤	中	二	中	一	中	九	中	八	中	七	中	六	中	五	中	四	中	三	中	二	中	一	中	九	中	八
三碧木性	年盤	乾	三	乾	二	乾	一	乾	九	乾	八	乾	七	乾	六	乾	五	乾	四	乾	三	乾	二	乾	一	乾	九
	月盤	乾	三	乾	二	乾	一	乾	九	乾	八	乾	七	乾	六	乾	五	乾	四	乾	三	乾	二	乾	一	乾	九
四綠木性	年盤	西	四	西	三	西	二	西	一	西	九	西	八	西	七	西	六	西	五	西	四	西	三	西	二	西	一
	月盤	西	四	西	三	西	二	西	一	西	九	西	八	西	七	西	六	西	五	西	四	西	三	西	二	西	一
五黄土性	年盤	艮	五	艮	四	艮	三	艮	二	艮	一	艮	九	艮	八	艮	七	艮	六	艮	五	艮	四	艮	三	艮	二
	月盤	艮	五	艮	四	艮	三	艮	二	艮	一	艮	九	艮	八	艮	七	艮	六	艮	五	艮	四	艮	三	艮	二
六白金性	年盤	南	六	南	五	南	四	南	三	南	二	南	一	南	九	南	八	南	七	南	六	南	五	南	四	南	三
	月盤	南	六	南	五	南	四	南	三	南	二	南	一	南	九	南	八	南	七	南	六	南	五	南	四	南	三
七赤金性	年盤	北	七	北	六	北	五	北	四	北	三	北	二	北	一	北	九	北	八	北	七	北	六	北	五	北	四
	月盤	北	七	北	六	北	五	北	四	北	三	北	二	北	一	北	九	北	八	北	七	北	六	北	五	北	四
八白土性	年盤	坤	八	坤	七	坤	六	坤	五	坤	四	坤	三	坤	二	坤	一	坤	九	坤	八	坤	七	坤	六	坤	五
	月盤	坤	八	坤	七	坤	六	坤	五	坤	四	坤	三	坤	二	坤	一	坤	九	坤	八	坤	七	坤	六	坤	五
九紫火性	年盤	東	九	東	八	東	七	東	六	東	五	東	四	東	三	東	二	東	一	東	九	東	八	東	七	東	六
	月盤	東	九	東	八	東	七	東	六	東	五	東	四	東	三	東	二	東	一	東	九	東	八	東	七	東	六

○天地の節替と大氣の變化

- 一、節替日の前後は先天的に天候或は氣候變化す。左表下、天候變化記入欄へ書入れ置きて將來實驗の參考とせらるべし。
- 一、四才以下の幼兒、月建方へ移居する時は死亡す。
- 一、住家の月建方へ胞衣を埋納すべからず。
- 一、交渉、轉居等に月破方を用ふべからず。
- 一、天干と地支相尅する月は氣候不順、天候異常なるべし。
- 一、凡て天の氣候の變化は一ヶ月遅れて地の氣候の變化となりて現はる。(直線の哲理)

節名	太陽曆 期間	節替日	氣層別大氣原子の中核			月建方	月破方	節替、天候 變化記入欄
			天干	九氣	地支			
立春、雨水	自二月六日 至三月五日	二月五日	土 戊 氣	土 二 氣 黑	火 寅 氣	寅 東 北の方	申 南 西の方	
啓蟄、春分	自三月六日 至四月五日	三月七日	土 己 氣	水 一 氣 白	木 卯 氣	卯 東 南の方	酉 西 北の方	
清明、穀雨	自四月六日 至五月五日	四月七日	金 庚 氣	火 九 氣 紫	水 辰 氣	辰 東 南の方	戌 西 北の方	
立夏、小滿	自五月六日 至六月五日	五月七日	金 辛 氣	土 八 氣 白	金 巳 氣	巳 南 東の方	亥 北 西の方	
芒種、夏至	自六月六日 至七月五日	六月八日	水 壬 氣	金 七 氣 赤	火 午 氣	午 南 南の方	子 北 東の方	
小暑、大暑	自七月六日 至八月五日	七月九日	水 癸 氣	金 六 氣 白	木 未 氣	未 南 西の方	丑 北 東の方	
立秋、處暑	自八月六日 至九月五日	八月九日	木 甲 氣	土 五 氣 黃	水 申 氣	申 西 南の方	寅 東 北の方	
白露、秋分	自九月六日 至十月五日	九月十日	木 乙 氣	木 四 氣 綠	金 酉 氣	酉 西 南の方	卯 東 南の方	
寒露、霜降	自十月六日 至十一月五日	十月十日	火 丙 氣	木 三 氣 碧	火 戌 氣	戌 西 北の方	辰 東 南の方	
立冬、小雪	自十一月六日 至十二月五日	十一月九日	火 丁 氣	土 二 氣 黑	木 亥 氣	亥 北 西の方	巳 南 東の方	
大雪、冬至	自十二月六日 至一月五日	十二月九日	土 戊 氣	水 一 氣 白	水 子 氣	子 北 東の方	午 南 西の方	
小寒、大寒	自一月六日 至二月五日	一月七日	土 己 氣	火 九 氣 紫	金 丑 氣	丑 北 東の方	未 南 西の方	

は大氣運行の實際と曆との間に毎年一年に及同會の兩哲理を應用し以て大氣運行の實を以て其正鵠を確む可し。

も二月五日子の刻より翌年二月四日亥の刻つを謂ふ。

を陰道と爲し、十月甲子一白の日より翌年陽に對し二十三度二十七分四十四秒の傾斜き日の時期と晝の長き日の時期とを生ず。

朔と一白、二黒、三碧、四綠、と陽運する日のの感能に感せずと雖も年月日時に流動輪回を示し日別内は日の大氣原子の變化を示す

而線の哲理に據り氣が變る即ち其人の精神これの人ならば甲及其六ッ目の天干即ち己表を用ひて人の精神の變化する時期を察し

一四七、九六三、二五八の三節三系あり、系あり。左表を以て線路の哲理を活應し處治療に、之を實施すべし。

(三) 感寸學氣

天徳と欲得

人は慾張りさへすれば必ず與へられるものではない。慾張つて必ず與へられるには得る純たる天徳の作用を持つ必要がある。若し此の天徳の作用を持たずして慾張り取ると其結果は一時良くとも必ず不幸の基となるものである。人生は慾の闘争場とさへ見られるのであるからして人は皆得る純たる天徳を持つて之に臨まなければ徒らに隔靴搔痒の感に堪へないのみである。而して人の慾張る分量と其與へられる分量とは常に甚しき懸隔のあるのが普通である。之は人の慾に照限がないと云ふよりも寧ろ人の得る純が弱い得る天徳が稀薄だと云ふ點に歸着する元來人の與へられる分量は其得る純たる天徳の分量換言すれば氣の保有量に正比例するものである。故に大いに取らんとする者は大いに氣を用ひて天徳の滯留を企圖せねばならない。

自己の得る純たる天徳の分量を超えて多く取ると嫉視、怨謀、指彈を受け不富利得とか横領とか思しい汚名を着せられるのである。しかし人が慾を出すすと云ふ事は決して卑しい事ではない。人の慾の最初にして最貴なるを生存慾と云ふのであるが此の生存慾を出すのは最も大切な事である。唯人は自己の分を知つて自己の有する得る純たる天徳の分量を超へて慾を出さぬ事である。假令出しても與へられず返つて不幸を見るのみであるからして寧ろ得る純たる天徳の蓄積を圖つてあとは自然の成行に委ねる方が賢明である。

人は自ら慾張らずとも有する天徳の分に應じて必ず天より與へられるものである。(九氣經濟學)

Table with columns for months (己未, 庚申, 辛酉, etc.) and rows for days (己未, 庚申, 辛酉, etc.), listing various celestial and seasonal events like 芒種, 夏至, 小暑, etc.

七赤金性	六白金性	五黄土性	四綠木性	三碧木性	二黑土性	一白水性
四三二 十二十三十四 六六五 十九十一	四三二 十一十二十三 六五五 十八十九	四三二 十一十二十三 六五五 十七十八	三三二 十九十一 六五五 十六十七	四三二 十七十八 七六五 十四十五	四三二 十六十七十八 七六五 十三十四	四三二 十五十六十七 七六五 十二十三
衰、極	衰、旺	衰、變	衰、沈	衰、初	盛、極	盛、旺
發病、貧苦(損失)、色情(放蕩) 移居(家出)、悲觀(憂鬱)	夫婦の離婚、子女の死別、勤務の 解雇、後援の斷絶、訴訟の興起	身上的變化、家庭の改善、處世の 改革、整理、相續争ひ、親族不和	身體の衰弱、金を減らす、引退沈 靜、口論、贅澤、消極的	現狀に倦怠、住居新増築の起念 一家の創立、幸運に狎れて慢心 生ず 投機に染手、過分の出金、偉大な る新希望新目的を發す、意張る、 金錢の濫費、解決を急ぐ	結婚、就職、信用つく、事の成就、 處世の悅樂、儲かる	

○人の一生と先天、天運盛衰の時期

- 一、十九歳以下の人は生月を以て本命と爲すが故に之を除く。
- 二、男子の運は主として其業に女子の運は主として其縁に効應す。
- 三、未婚男子は左表天運の慶徳に浴せず。
- 四、既婚女子は其天運、主人の天運に左右せらるべし。
- 五、八種の天徳を豊有する家相に満四ヶ年以上住居するものは左表を無視して常に盛陽の天徳を稟け之を子々孫々繼承すべし。
- 六、左表盛陽、衰陰時代の逆たる天運の人あるべし之を逆運と謂ひ、尅氣を稟くるに依り起る。
- 七、先天天運は氣學後天の作用(方術)を以て之を改變志得るものとす。

運の年晩					運の年中		運の年初		天 運 別 期 別	年 齡 別
性白八	性赤七	性白六	性黄五	性黒二	性白一	性紫九	性緑四	性碧三		
胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	五ヶ年	自二十歳 至百子刻 同 同
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第一}	四ヶ年	自十五歳 至十九歳 同 同
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自十九歳 至二十四歳 同 同
全上	全上	全上	全上	全上	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	四ヶ年	自十四歳 至十八歳 同 同
全上	全上	全上	全上	全上	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自十六歳 至二十歳 同 同
盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第一}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	四ヶ年	自十三歳 至十七歳 同 同
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自十七歳 至二十二歳 同 同
盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第二}	盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	全上	全上	四ヶ年	自十三歳 至十六歳 同 同
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	全上	全上	五ヶ年	自十六歳 至二十歳 同 同
盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	盛陽期 ^{第三}	全上	全上	全上	全上	四ヶ年	自十一歳 至十五歳 同 同
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	全上	全上	全上	全上	生涯	死亡ニ至 ル迄

(四) 感寸學氣

特長なき者は食へない

勤いて損をする。勤いて猶且食へないとは何が故ぞ敢へて人の働きのみならず人の處世に於ける自然の成行(天運)に得る軌と失ふ軌との二あり。得る軌に入れる者は世の景氣不景氣に超越し生活常に安らかにして人生を樂むも失ふ軌に入れる者は之に惱みて人世を厭ふべし。得る軌とは祐氣の呼吸の齎す作用を指し、失ふ軌とは尅氣の呼吸の齎す作用を指す。祐氣の呼吸は人の本命の氣(誕生の際體內に稟保せる大氣)を助長育成す可く尅氣の呼吸は之を萎縮尅害すべし。抑々人の本命の氣とは天地の其人に與へし得る軌たる特長とす。此の人の特長こそ人の生存を裨益し人の文化を向上せしむるものにして又一面人の世に於ける存在の必要性を作るものとす。されば特長なき人は世に存在の必要性なき人にして得る軌なく究極其生存の困難を來すべし。

自己の世に存在の必要性を強化擴大維持すること人の榮達の方途にして又祐氣の撰用こそ之が達成の緒端たり。別言すれば祐氣の効應は其成果必ず人の特長と爲りて表現するものにして此の特長を優秀と謂ひ、天稟と謂ひ、天才と謂ひ、才能と謂ふ。而して人の特長に一百より九紫に至る八種あり(五黄を除く)何人と雖も先天的に有する其本命の特長以外に尙七種の特長を後天的に附加するを得可く以て全人たり得可し。人の特長の發揮體現を業と謂ひ處世の用と爲す。則ち業無き人は得る軌なく生くる事能はず特長なき人は業を得ず生涯を盡くすを得ざるなり。(九氣經濟學)

氣學講堂發行圖書目錄

大阪府南區順慶町二丁目三十八番地
頒布所 矢野慶太郎

既刊	胎中著	胎中編	胎中著	胎中編	胎中編	胎中編	胎中編
胎中著	胎中編	胎中著	胎中編	胎中編	胎中編	胎中編	胎中編
氣學の提唱	氣學入門	三界の家	九氣密意	九氣建築學	九氣醫方	九氣醫方	九氣醫方
小版和 一冊	菊判和 一冊	四六判 和一本	菊判和 二卷	菊判和 二卷	菊判和 二卷	菊判和 二卷	菊判和 二卷
定價七拾錢	定價七拾錢	定價七拾錢	定價百圓	定價百圓	定價百圓	定價百圓	定價百圓
送料拾五錢	送料拾五錢	送料拾五錢	送料拾參錢	送料拾參錢	送料拾參錢	送料拾參錢	送料拾參錢
宇宙、大氣に關する新自然科學を提唱し以て既成宗教の爲す無きを罵り、新宗教興起の時期待を叫ぶ	人と宇宙大氣との深縁を説き、神の加護佛の慈悲に浴する人爲の實際手段を教ふ	人の住家は活物たるを示し以て人の處世に除禍招慶の具体策を垂示す	物質の構成も現象の生因も共に宇宙運行の大起る未知の眞理を述べたる大氣物理學たり	建築の保有する大氣の作用と其居住者の運命を説く新創有機建築學とす	宇宙運行の大氣を構成する新藥科學の書たり	知り之を人體に藥用する新藥科學の書たり	人體の小天地たる所以を説き大氣を通じて天地と連絡するによつてのみ人體は生き得るも病を治療する新發見の醫術とす

大氣分界測定器

革製箱入壹個

定價拾五圓

氣學講堂學則抄

(昭和五年十二月改正)

第一條 本講堂は人に宇宙大氣原子の體と用とを知得せしめ之を自己に活用實
施せしめて人生、處世の怡樂に歡喜せしむるを目的とす。
第二條 本講堂の授教に左の各科を置く。

各科別	講習料	講習期間	講習回数	定員
入門普通科	一〇、五〇	六ヶ月	三回	十二名
奥傳高等科	二〇、五〇	一ケ年	二回	六名
極意三密科	二〇、五〇	三ケ年	二回	三名

第四條 各科の教授科目左の如し

入門普通科	大氣・輪廻・五行・天干地支・九氣作用・祐氣及尅氣・吉凶相生・相尅・四盤・遁甲・六大凶殺・吉神・大歲・四淨土・運氣轉換法・用氣法 <small>(除禍招慶方)</small> ・吉凶鑑別・軌・同會・線路・氣幾象・對中・三合・表裏・直線・卦象・八方・衍數・曆・體用・主及備・心理氣學・九氣建築學 <small>(家相)</small> ・運命鑑定法・大氣教育學
奥傳高等科	色と數・先天及後天・陰遁及陽遁・無極・太極・兩儀・四象・三界・金剛視・胎藏思・無より有を生ずる妙法・胎・九氣醫方・軍用氣學 <small>(軍人ニ限ル)</small> ・探偵氣學・發明發見方・投機成功方・生理延命方・九氣經濟學・氣數理學
極意三密科	

第五條 本講堂入門希望者は紹介者連署を以て入門申込書を提出すべし。
但、入門申込書用紙は本講堂より交附す。
第六條 奥傳高等科入學者は入門普通科修了者より極意三密科入學者は奥傳高等科修了者より其入學希望者を以て之に充つ。
第九條 奥傳高等科修業證書被授者は本講堂の認諾を経て家相方位鑑定の開業を爲す事を得。
第十條 本講堂の開講日に無斷缺席二回以上に及ぶ者は除名停學すべし。
第十二條 氣學は如來の本願にして唯我獨尊に到るが故に之を他人と論議するを禁ず。

(詳細は學則を呈す)

氣學役員錄

(昭和九年七月現在)

氣學講堂

京都市外向日町



師家

宰事

宗家 田中胎東

東京支舍長	權大講教	古川喜美
兵庫支舍長	權中講教	中臺蝶
大阪支舍長	少講教	杉木祐一
		岩田順三

愛知支舍長	少講教	本多惠治
千葉支舍長	權少講教	下里靜
埼玉支舍長	權少講教	萩野貫一
長野支舍長	權少講教	大柳善彦
群馬支舍長	權少講教	久保田忠孝
神奈川支舍長	權少講教	渡邊勝明
茨城支舍長	權少講教	菅沼靖元
奈良支舍長	權少講教	橫內治重
和歌山支舍長	權少講教	大塚恒吉
岡山支舍長	權少講教	中安秀野

幹事
九六教導部(千葉) 権少講教 武井春美

九六教導部(東京) 権少講教 小菅冬子

九六教導部(埼玉) 権少講教 渡邊源藏

九六教導部(神奈川) 権少講教 須賀千世

九六教導部(埼玉) 権少講教 高橋晴

九六教導部(兵庫) 権少講教 小南久太郎

九六教導部(兵庫) 権少講教 山本シゲ

九六教導部(東京) 権少講教 森春子

九六教導部(神奈川) 権少講教 山口くに

九六教導部(東京) 権少講教 伊藤寅武

氣藥理醫部(東京) 権少講教 友成淑夫

氣藥理醫部(埼玉) 権少講教 落井はる

氣藥理醫部(神奈川) 権少講教 福岡千鶴

氣藥理醫部(千葉) 権少講教 石村イサヲ

氣藥理醫部(千葉) 権少講教 友成梅枝

氣學修齊會幹事 権少講教 糸岐千行

氣學修齊會幹事 権少講教 山村彼面

天運纂修長 権少講教 大塚恒吉

天運纂修 権少講教 中臺正治

氣學天壇



京都市愛宕山上

律主

宗家 田中胎東

宰	事	少講教	古川國康
參	與(西方)	權少講教	須賀孝一
參	與(東方)	權少講教	中臺勘藏
參	與(北方)	權少講教	小菅増太郎
參	與(西方)	權少講教	吉本勢
參	與(東方)	權少講教	篠本貞

參	與(西方)	權少講教	久保田文
參	與(西方)	權少講教	中井つね
參	與(東方)	權少講教	久保田八百
參	與(南方)	權少講教	中臺正治

自然の成行と人の運命

人の運命は人の行爲の果に非ず。人の行爲こそ人の運命の果と爲す。故に人は自ら運命を如何とも爲す能はざるべし。人は運命の奴隷なりとは實に

至言たり。

然らば人の運命を主宰左右する者は何ぞ。自然の成行則ち是なり。

抑々自然の成行とは人を圍遶する現象にして宇宙大氣原子の替む作用たり。則ち人は自己を圍遶する自然の成行を常に自己に對し善良ならしめんと欲せば必ず其の生因たる宇宙大氣原子を重んじ絶へず其の祐氣を呼吸保有せざる可からず。

所謂神の加護、佛の慈悲とは即ち此の自然の成行による惠澤に浴するを謂ふ。

(五) 感寸學氣

氣學講堂料金規定

- 一、建運指導 一人 金拾 圓
- 一、家相立案 一住宅 金參百圓
但、以上ハ建運自願書御提出ヲ要ス 以上
- 一、特殊鑑定 一事件 金五百圓
但、確實ナル御紹介者ヲ要ス 以上

右之通

昭和八年七月

氣學講堂役場係

氣學修齊會料金規定

- 一、身上鑑定 一人一件 金參 圓
- 一、修齊占照 一護持 金五 圓
- 一、家相鑑定 一住宅 金五 圓
- 一、家相工案 一住宅 金五拾圓
以上

右之通

昭和八年七月

氣學修齊會

昭和九年八月十日印刷
昭和九年八月二十日發行

非賣品

著者 田中胎東

東京市杉並區善福寺町四十番地

發行者 古川喜美

京都市外向日町上植野十番地

印刷所 小野原印刷所

京都市猪熊通九條下川原城町

發行所 氣學講堂

京都市外向日町

電話向日町一四二番
振替大阪一七七九二番

有所權版

終

